



1 図表番号は、それぞれ Fig. 1, Fig. 2, ...Tab. 1, Tab.  
2 2, ...とし、和文、英文の説明をつける。図題・表題に  
3 用いる英語は冒頭のみ大文字、以降は原則として小文  
4 字を使用する。図表の寸法は、片段横寸法（段組1段  
5 分）または段抜き横寸法（段組2段分）のいずれかで  
6 作成すること。

7 図表で用いる数字の有効桁数は適切に記載するこ  
8 と。また、モノクロ印刷においても識別できるように、  
9 写真のコントラストや図の凡例は適切に作成するこ  
10 と。なお、カラー印刷を希望する場合には、別途費用  
11 を請求する。

### 12 13 3-2. 論文で用いる単位系

14 用字・用語については、現代かなづかいとする。ア  
15 ラビア数字を使い、原則として SI 単位系 (m, kg, s,  
16 A など) を用いる。(心拍数、血圧など SI 単位系以外  
17 の単位が慣例となっている場合を除く。)

## 18 19 4. 考 察

### 20 21 4-1. 著者校正について

22 校正は原則として初校のみ著者が行い、初校以降は  
23 編集委員会に一任する。必要に応じて表現・語句の統  
24 一等は編集委員会が行う。また、校正の段階で論文内  
25 容の大幅な変更や著者の追加などは原則として行え  
26 ない。

### 27 28 4-2. 査読の評価基準について

29 総説論文を本学会では「ある問題に対する最近の学  
30 術的・技術的知見や成果を、歴史的背景、重要性、進  
31 捗状況、将来の方向等を踏まえつつ、総合的に論述し  
32 たものとする。著者の原著報告であってはならない。  
33 但し著者の業績を中心に述べることは差しつかえない  
34 」と位置づけており、下記の基準で主査・副査は論文  
35 の評価を行う。

36 **[新規性]**：下記の1)~3)のうち、1つが満たされてい  
37 ること。

- 38 1) 新しい発見または知見の提示
- 39 2) 新しい理論、方法論、手法、評価方法等の提案
- 40 3) 新しい問題領域や問題設定の提案

41 **[有用性]**：下記の1)~3)のうち、1つが満たされてい  
42 ること。

- 43 1) 研究および設計・開発を有効に支援するデータの  
44 提示
- 45 2) 学術的、社会的ニーズに対する問題解決法、評価法、  
46 対策の提示・提案
- 47 3) 既存の知見や理論および方法の体系化

48 **[客観性]**：下記の全てが満たされていること。

- 49 1) 記述内容に誤りや矛盾がなく、記述が分かりやす  
50 く、論旨の展開が明確であること。
- 51 2) 研究目的が分かりやすく明確に記述されているこ  
52 と。
- 53 3) 実験や調査が含まれている論文においては、実験  
54 条件や調査方法が分かりやすく明確に記述されて  
55 おり、信頼性を有すること。
- 56 4) 結果、結論が知見として明確に示されていること。
- 57 5) 関連する文献等を適切に引用し、従来研究との関  
58 連が明確であること。

## 59 60 61 5. おわりに

62 このテンプレートでは、段組の左欄に行数を表示す  
63 る「行番号の表示」設定をしてある。査読コメントで  
64 使用するため、表示しておくこと（設定方法は p.4 参  
65 照）。なお、採択論文が学会誌へ掲載される際には、  
66 印刷所にて組版を行うため、本テンプレートの頁数と  
67 掲載時の頁数が異なる場合がある。

### 68 69 70 利益相反

71 総説では原則として利益相反に関する記述は不要  
72 である。

73 <参考：査読のブラインド方式について>

74 人間工学誌の査読では、長らくダブルブラインドの査  
75 読方式（著者には主査・副査名を知らせないとともに  
76 副査にも当該論文の著者名を知らせない状態で査読  
77 を行う方式）を採用してきたが、今日の学術動向に鑑  
78 みシングルブラインドの査読方式（著者名を主査・副  
79 査に開示する方式）で運営することとなった。著者情  
80 報を本文に明示した形で論文原稿を作成のこと。

### 81 82 謝 辞

83 謝辞はここに書く。

### 84 85 参考文献

- 1 本文中には、引用個所の右肩に文献の番号を記載し、  
2 本文末尾に出現順にまとめて記載する。書誌情報は誤  
3 りのないように記載すること。形式は以下の例示のと  
4 おりとする。なお、詳細は科学技術情報流通技術基準  
5 (SIST) を参照のこと。  
6 SIST02-2007  
7 <https://jipsti.jst.go.jp/sist/pdf/SIST02-2007.pdf>  
8  
9 <論文・雑誌の場合>  
10 著者名、論文名、誌名、出版年、巻数、号数、はじめ  
11 のページおわりのページ、ISSN。(言語の表示)、(媒  
12 体表示)、入手先、(入手日付)。  
13 ※電子雑誌などで、ページのない場合は、記事番号等  
14 を記述する。  
15  
16 1) 大須賀美恵子、青木和夫、他。座談会ーネットで  
17 語る人間工学の来し方行く先ー。人間工学。2014、  
18 50(1), p. 1-10。  
19 2) Dul J.; Bruder R, et al. A strategy for human  
20 factors/ergonomics: developing the discipline and  
21 profession. Ergonomics. 2012, 55(4), p. 377-395, doi:  
22 10.1080/00140139.2012.741716。  
23  
24 <特集記事中の1記事の場合>  
25 著者名、特集標題：論文名、誌名、出版年、巻数、号  
26 数、はじめのページおわりのページ、ISSN。(言  
27 語の表示)、(媒体表示)、入手先、(入手日付)。  
28  
29 3) French, J. C.; Chapin, A. C.; Martin, W. N. Special  
30 topic section, Document search interface design for  
31 large-scale collections: Multiple viewpoints as an  
32 approach to digital library interfaces. Journal of the  
33 Association for Information Science and Technology.  
34 2004, 55(10), p. 911-922。  
35  
36 \*巻・号は略記に。学会誌名は略記ではなく正式名  
37 称を記載すること。雑誌名の各単語の最初は大文  
38 字にすること。ただし transaction については小文  
39 字。  
40 \*英文誌の場合、著者は Family name を記載、First  
41 name はイニシャルのみ。3名以上の場合は2名  
42 まで記載し、et al 表記にすること。First name と  
43 middle name の略記の間はスペースを空けない。  
44 \*doi コードが提供されている場合は付記すること  
45 を推奨(必須ではない)  
46  
47 <Proceedings・講演集の場合>  
48 会議報告書名、編者名、会議開催地、会議開催期間、  
49 会議主催機関名、出版地、出版者、出版年、総ページ  
50 数、(シリーズ名、シリーズ番号)、ISBN。(言語の表  
51 示)、(媒体表示)、入手先、(入手日付)。  
52 ・会議主催機関名と出版者が同一の場合は前者を省  
53 略してもよい。  
54 ・会議開催地が東京である場合は省略してもよい。  
55 ・会議開催年と出版年が同一の場合は出版年を省略  
56 してもよい。  
57  
58 4) 青木和夫。“日本人間工学会の歴史と現状”。人間  
59 工学。神戸市、2014-06-05/06。日本人間工学会、  
60 2014, p. S8-S9。  
61 5) Ebara T.; Yoshitake R.; et al. “Impact of Ergonomics  
62 good practices database as public relations tools”。  
63 International Ergonomics Association: Proceedings of  
64 17th World congress on Ergonomics. Beijing, China,  
65 2009-08-09/14。  
66  
67 \*CD-ROM などの電子媒体の場合、ページ番号は  
68 任意  
69  
70 <書籍(1冊)の場合>  
71 著者名、書名、版表示、出版地、出版者、出版年、総  
72 ページ数、(シリーズ名、シリーズ番号)、ISBN。(言  
73 語の表示)、(媒体表示)、入手先、(入手日付)。  
74  
75 6) 日本人間工学会編。ユニバーサルデザイン実践ガイ  
76 ドライン、東京、共立出版、2003、139p。  
77  
78 7) Ningen J. Book Title. Ergonomics Press, 2017, 200p。  
79  
80 <書籍の場合>  
81 著者名。“章の見出し”。書名、編者名、版表示、出版  
82 地、出版者、出版年、はじめのページおわりの  
83 ページ、(シリーズ名、シリーズ番号)、ISBN。(言語  
84 の表示)、(媒体表示)、入手先、(入手日付)。  
85  
86 8) 人間太郎。“章の見出し”。人間工学実践ガイドラ  
87 イン。日本人間工学会編、東京、日本人間工学会、  
88 2017, p.1-10。  
89 9) Ningen T. “Chapter Title”。Book Title. 1st ed.,  
90 Ergonomics Press, 2017, p.1-10。  
91  
92 <オンライン上の電子資料の場合>

- 1 10) 日本人間工学会テレワークガイド委員会. 2010年  
2 版ノートパソコン利用の人間工学ガイドライン,  
3 <http://www.ergonomics.jp/product/guideline.html>, (参  
4 照 2012-10-19)  
5  
6 <オンライン上のコンテンツの場合>  
7 著者名. “ウェブページの題名”. ウェブサイトの名称.  
8 更新日付. (言語の表示), (媒体表示), 入手先, (入手  
9 日付).  
10  
11 11) 日本人間工学会, “人間工学とは一人間工学の定  
12 義”. <http://www.ergonomics.jp/outline.html>,  
13 (参照 2014-01-10)  
14  
15 <ISO/JIS などの規格文書の場合>  
16 規格番号: 制定年. 規格標題. 出版者. (言語の表示).  
17  
18 12) ISO 9241-210:2010. Ergonomics of human-system  
19 interaction -- Part 210: Human-centred design for  
20 interactive systems.

## 著者情報

顔写真 (任意)  
30mm×40mm

### 人間工学花子 (にんげんこうがくはなこ)

19〇〇年人間工学大学人間工学学部卒.  
博士 (工学). 〇〇株式会社の勤務を経て,  
20〇〇年より人間工学大学人間工学  
学部助教. 専門領域: ヒューマンインタ  
フェース設計, HCD ほか. 日本人間工学  
会会員ほか.

連絡先: 〇〇〇@ergonomics.jp

顔写真 (任意)  
30mm×40mm

### 赤坂太郎 (あかさかたろう)

プロフィールを記載します (100字以内).  
経歴 (学歴・職歴) および専門領域およ  
び所属学会などを記載.

#### — (以下は採択決定後, 提出) —

- ・論文末尾に筆頭著者 (筆頭著者が連絡著者でない場合は筆頭著者および連絡著者) の著者情報を記載する. その他の連名者の著者情報の記載は任意とする.
- ・連絡著者の著者情報には連絡先 (e-mail アドレス) を必ず記載する.
- ・写真の掲載は任意である
- ・掲載料は投稿規程の別表に記載されている. 著者情報部分もページ数にカウントされる.

## 【段組設定の方法 Microsoft WORD2013 の場合】

段組設定を表示させたい文字列を選択後、[ページレイアウト]タブ内の[行番号]にて[ページごとに振り直し(R)]設定をチェックすれば段落版行が表示される。解除（非表示）するにはチェックを外せば良い。下図参照。

